

まちづくりマーケティング

第7回

2016年11月24日

© Department of Business and Economics,
School of Business and Economics, Nippon Bunri University

わたしたちの行動

- 800円のケーキを食べたい
 - 欲求
- 財布には500円しか入っていない
 - 制約
- 500円のケーキの中でどれを選ぶか?
 - 選択
 - イチゴのショートケーキか
 - それともチーズケーキか



© Department of Business and Economics,
School of Business and Economics, Nippon Bunri University

効用最大化問題 1

- わたしたちはケーキを食べる
 - 消費する
- わたしたち — 消費する人
 - 消費者
- 消費者の目的
 - 効用が大きくなるように行動する
 - 効用最大化問題

© Department of Business and Economics,
School of Business and Economics, Nippon Bunri University

需要

- ケーキが1000円ならば、ケーキを食べたいと思っている人は1人だけ
- ケーキが800円ならば、2人
- ケーキが500円ならば、10人
- 需要：それぞれの価格の下で、消費者が必要としている消費量
 - 効用最大化問題から導かれる

© Department of Business and Economics,
School of Business and Economics, Nippon Bunri University

私たちの消費行動とまちづくり

- まちづくり
 - 買い物客が来なければ意味がない
 - シンボジウム 食べる場所がない お金を落とす場所がない
 - 収入-支出が赤字にならないようにしなければならない。
 - これまでは赤字分を補助金で補てん
 - 支出削減は頑張っている。
 - 収入を増やしたい
 - 買い物客の行動を少し考えてみよう。

© Department of Business and Economics,
School of Business and Economics, Nippon Bunri University

2


3つのやくそくごと

- プリン、ケーキ、クレープのどれが好き?
- それぞれ、好き嫌いが言える
- どっちが好きか言える
- 好き嫌いに矛盾がない



© Department of Business and Economics,
School of Business and Economics, Nippon Bunri University

なぜ制約が発生するのか?

- 人間の欲望は無限
 - 
- 時間やお金は有限（限られている）
 - 希少性
- 有限なもの一資源
 - 天然資源（石油、石炭、木材）
 - 時間など

© Department of Business and Economics,
School of Business and Economics, Nippon Bunri University

需要と供給

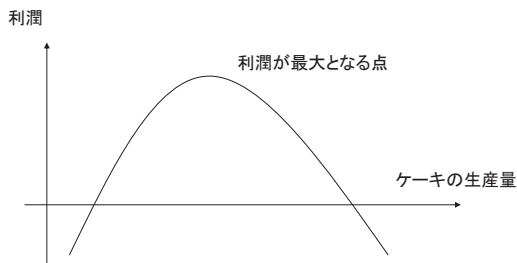
- この需要のもと
 - ケーキ屋さんは、儲けることができるのか?

© Department of Business and Economics,
School of Business and Economics, Nippon Bunri University

8

- ケーキが1000円ならば、ケーキを食べたいと思っている人は1人だけ
- ケーキが800円ならば、2人
- ケーキが500円ならば、10人
- 需要：それぞれの価格の下で、消費者が必要としている消費量
 - 効用最大化問題から導かれる

- ケーキ屋さんの目的
 - ケーキ屋が繁盛すること！
 - 利潤=収入 - 費用を最大にすること！
- 利潤最大化行動
 - 利潤が最大となるためには、ケーキを何個作ればよいらろうか？
 - ケーキを作れば作るほど収入は増える
 - ケーキを作れば作るほど費用も増える



- 費用：実際に支払った金額だけではない
- あなたが、高校を卒業して就職したならば、年収250万円が得られたかもしれない
- 短大に通うために費用
 - 学費+あきらめた250万円（機会費用）
- 退学しても学費は戻ってこない
 - 一度支払って二度と戻ってこない費用
 - サunk・コスト